

晟雄の会 総会開く

深澤精神に思いを結集



総会前に行われた及川和男氏の講演会

第2回深澤晟雄の会総会は6月1日午後6時から沢内バーデンで開かれ、深澤晟雄資料館整備事業を中心とする20年度事業や予算など6議案を可決しました。総会は及川和男氏の講演と「深澤晟雄を讃える歌」の披露という二つのイベントを組み込んで行われ、深澤精神に思いを重ねて活動の発展を誓いあいました。

総会に先立って午後5時から、「村長ありき」の著者及川和男氏が「今なぜ深澤精神か」と題して講演、50人余りの出席者に深い感銘を与えました。

講演で及川和男氏は、深澤晟雄の言葉を引用しながら深澤精神の根幹を分析。「新たな人間格差を生み出している現代社会だからこそ深澤精神は今、憲法25条を照らして輝きを増している」と述べ、生命行政の深澤哲学を分かり易く解説しました。

講演会に続いて行われた総会で太田祖電理事長は、「深澤晟雄資料館の整備を機会に、深澤精神を再確認にしながら後世に継承したい」とあいさつ。高橋町長・佐々木町議会議長が祝辞を述べました。

総会議長に分沢の黒淵淳一氏を選出して議案審議に入りしました。19年度事業報告と決算を承認した後、深澤晟雄資料館の運営費確保を含めて来年度から会費年額2千円とする改正案を全

資料館整備事業など原案承認

会一致で可決。深澤晟雄資料館整備事業を中心とする20年度事業計画と総額280万3千円の予算案、資料館整備事業関連の特別会計予算等3議案もすべて原案通り承認されました。このうち資料館整備事業特別会計は総額2千295万円、その財源のほとんど2千205万円(税込み)は日本宝くじ協会からの助成金となります。

また、総会当日、新会員として町外5人、町内2人から入会申込みがありました。



“深澤晟雄を讃える歌”
音量豊かに会場魅了

総会後の懇親会冒頭に秋田市在住の外山光子さんによるピアノ演奏と歌で「深澤晟雄を讃える歌」が披露されました。昭和41年に胸像除幕式に歌われたもので、外山さんの豊かな声量は深澤晟雄の魂と触れ合う響きで参加者を魅了しました。

「姥捨山の考え方では 社会の秩序は保てない」

深澤語録を訪ねて



増田進医師の診察を受けるお年寄り（昭和40年頃）

二期目の村政を担当して間もない夏のころ、深澤晟雄は、岩手国保連主催の「保健活動事業夏季大学」に招かれ、2時間に及ぶ講演を行っている。沢内村における「保健活動」と題するこの講演は、晟雄の政治哲学を知る上で第一級の資料価値を有している。（及川和男著「村長ありき」より）

ここで老人への十割給付の理由を述べますと、もちろん改めて言うまでもないのですが、60歳以上の高齢者ともなると、たとえ生活が苦しくなくとも遠慮がちになってきます。自分の子どもを考えると、子々孫々のことを考えると、もう墓場に近くなっているものが、ちよっとの

風邪を引いたぐらいで、ちよっとお腹が悪いぐらいで、医者頼むのはつまらぬように考える。まあ、我慢しておけ、家計持っている時代と違って、いわゆる自分のけ者だと言う感じを年寄りには持ちがちであります。私はそういう考え方に対して人道主義的にも同情を禁じえないし、また、そういう

感傷的な道徳主義ばかりではなしに、お年寄りを大事にしなければ、いろいろの秩序というものが生まれて参りません。

誰もが辿る年寄りの運命であつてみれば、その年寄りを生産能力がないからと言って粗末にする、そういう風潮が一家の中に漂うようでは、社会は無秩序の状態になってしまう。村全体もそういう秩序のない村になりがちになります。私は政治の面からもそういう狙いもあったわけでありませぬ。

年寄りを姥捨山のように考える考え方が、若い人やお嫁さんの中に、それが当たり前だと言うような考え方になるようでは、ぜんぜん問題になりませぬ。人間尊重の精神とか、民主主義など唱える資格のないものであつて、私はあくまでもお年寄りと言うお気の毒な方々、自分の生命、一番大切なものにさえ遠慮していただける、いわゆる生産力を持たないという方たちに十割給付の「最初の段階として絞ったわけでありませぬ。

上映会のご案内

「いのちの作法」上映会のうち、一般を対象とする6月5日以降の6月の予定をお知らせします。お近くの会場の知人・友人に知らせてあげましょう。

日時／6月8日 昼13時・夜18時開場 場所／紫波町野村胡堂あらえびす記念館 昼夜各120人限定。

日時／6月15日 16時 場所／群馬県南牧村活性化センター 150人限定、イベント内のため入場無料。

日時／6月21日 昼14時30分・夜18時開場

場所／平泉郷土館ふれあいホール

日時／6月22日 12時30分開場 場所／盛岡市・プラザおでつて3階（180人限定。前売券のみ）